

イベント情報  
(7~9月)

●畜産研究所

・7月17日午前10時～  
「自給飼料生産研修会」



●農産園芸研究所・生産環境研究所

・8月6日午後1時～  
「作物・園芸部門成果発表会」



●果樹研究所

・9月10日 午後1時30分～  
「果樹部門成果発表会」



詳しくは、各研究所にお問い合わせください。

熊本農業の未来を拓く  
攻めの農業技術開発

3

イタリアンライグラスを遅播きすると  
収量が低下し硝酸態窒素が高くなる

本県でのイタリアンライグラスの播種適期は9～10月頃です。しかし、近年作付面積が急激に増加している飼料用イネや稲わらの収穫・調製時期と重なるため、播種時期が遅れる傾向にあります。

そこで、播種適期から2カ月遅れた12月中旬に播種し、生育・収量及び成分に与える影響について調べました。

1. 発芽が悪く、収穫期も遅れる。

播種適期から2カ月遅れて播種すると、発芽が悪く、刈取適期（出穂期）も遅くなります。

2. 収量が減る。



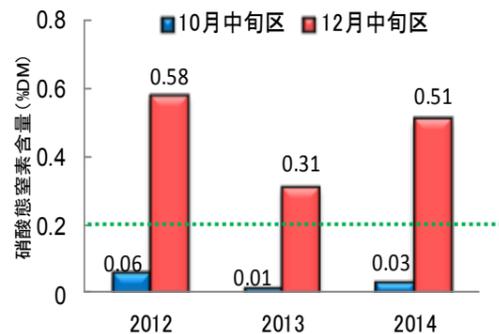
10月播種（適期）

12月播種

草丈や収量、乾物収量も明らかに低くなります。

3. 硝酸態窒素濃度が高くなる

成分についてみると、粗タンパク含量や硝酸態窒素濃度は高くなり、特に、硝酸態窒素濃度は、牛への給与の基準値とされる0.2%を大きく超えるため、中毒が心配され、牛への給与には注意が必要となります。



以上のことから、適期播種や肥培管理を徹底するとともに、播種が遅れて硝酸態窒素過多が心配される場合には、給与する前に飼料分析を行ってください。

農研NOW

No.13

夏号  
平成27年7月

目次

- イチゴ新品種「熊本VS03」 P.2
- エア送風内張2層化技術 P.3
- イタリアンの遅播の影響 P.4

当センターでは、生産現場へ速やかに普及・定着を図る成果について、「農業の新しい技術」として公表しています。

今年も平成26年度の研究成果のうち、「農業の新しい技術」18成果を公表しました。

今後、この農研NOWでご紹介していきます。

なお、これらの成果は、当センターのHPで公開しておりますので、ご覧ください。

また、指導者向けの「農業研究成果情報」46成果についても併せて公表しています。（一部非公開）

18成果>>公表!  
平成27年度「農業の新しい技術」

- 1 熊本県オリジナル酒造好適米品種「華錦」の特性
- 2 促成イチゴ品種「熊本VS03」の特性
- 3 トルギキョウ切り花における二度切りでの5月出し栽培技術
- 4 トルギキョウ切り花の日持ちを向上させる収穫後の管理体系
- 5 湿地性白色カラーの品種識別用SSRマーカー
- 6 チャットコソミとクワコウガラムシ第1世代との同時防除効果は高い
- 7 園芸ハウスをエア送風内張2層化すれば燃料消費量が削減できる
- 8 産地における種シロカの効率的な温湯消毒法
- 9 牛乳成分を含む発酵飼料はトリコソイルの代替として乳牛に給与可能である
- 10 胸囲の測定値から褐毛和種子牛の体重が推定できる
- 11 褐毛和種子雄牛「球光重ETI」の選抜
- 12 褐毛和種子雄牛「幸泉」の選抜
- 13 褐毛和種子雄牛「弦光晴」の選抜
- 14 褐毛和種子雄牛「波光豊」の選抜
- 15 黒毛和種子雄牛「福久桜」の選抜
- 16 イタリアンライグラスを遅播きすると収量が低下し硝酸態窒素含量が高くなる
- 17 施設栽培におけるヒヨウ台「肥の豊」の早期樹冠拡大のための枝梢管理法
- 18 露地栽培におけるコナン発芽不良軽減のための管理技術



農研NOW 夏号 平成27年7月

KUMAMOTO Pref. 農業研究センター

〒861-1113  
熊本県合志市栄3801  
tel 096-248-6411  
fax 096-248-7039  
E-mail noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、企画調整部 情報課 までご連絡ください

管理部  
総務課  
経理課  
096-248-6412

企画調整部  
企画課  
情報課  
096-248-6423

農産園芸研究所  
作物研究室  
矢部試験地  
バイオ育種研究室  
花き研究室  
野菜研究室  
096-248-6444

生産環境研究所  
環境保全研究室  
土壌肥料研究室  
施設経営研究室  
病害虫研究室  
096-248-6447

畜産研究所  
大家畜研究室  
中小家畜研究室  
生産基礎技術研究室  
飼料研究室  
096-248-6433

茶業研究所  
096-282-6851  
い業研究所  
アグリビジネス支援室  
0965-52-0500  
育種・栽培研究室  
加工・機能性研究室  
野菜栽培研究室  
0965-52-0372

草地畜産研究所  
0967-32-1231

果樹研究所  
常緑果樹研究室  
落葉果樹研究室  
病虫化学研究室  
0964-32-1723

高原農業研究所  
0967-22-1212

球磨農業研究所  
0966-45-0470  
天草農業研究所  
0969-22-4224

農研NOW 夏号 平成27年7月

「フードバレー  
アグリビジネス  
センター」  
オープン！

「フードバレーアグリビジネスセンター」は、くまもと県南フードバレー構想の中核施設として、八代市鏡町にある当センター一業研究所内に完成しました。

建物は、木造一部2階建ての延べ約1100㎡の広さで、温度や湿度、酸素濃度などを変えながら鮮度を保つ試験研究ができる機器などを設置した研究棟と、農林漁業者と企業の相談や交流の場となる事務棟があります。

県南地域の豊富な農産物を活かし、高付加価値化に関する試験研究を行うとともに、6時産業化の支援や事業者と食関連企業などとの新たな結びつけを行い、地域の活性化に繋がるオープンイノベーションを創出します。



〒869-4201  
八代市鏡町鏡村363  
TEL 0965-52-0500  
E-mail info@abc-kumamoto.jp  
URL http://www.abc-kumamoto.jp

「くまもと農業」の魅力を発信できる新品種 **1**

県オリジナルイチゴ新品種  
「熊本VS03」

本県は、全国でも有数の促成イチゴの生産地です。しかし、生産者の高齢化や後継者不足の中で、労働時間が長く収益性が不安定なことから、生産者および作付面積は減少傾向にあります。

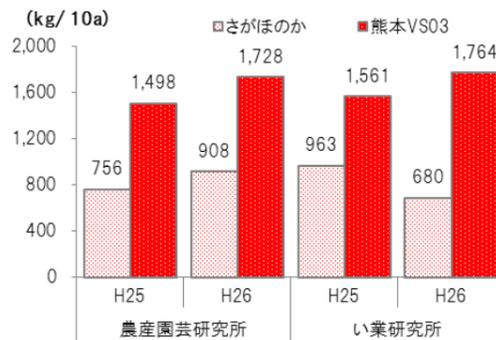
このような中、生産現場では、より収益性を安定させるために、単価の高い時期である年内の（特にクリスマス時期）の収量向上が求められています。

そこで、早生性を有し、年内の収量が多く、総収量及び果実品質に優れた県オリジナル品種を育成しました。

特長1：収量が多い



収量が多く、特に需要が高い年内（クリスマス時期）の収量が多い。



年内収量（可販果収量）

特長2：大玉で形も色も良い



果実は円錐形で、揃いが良く、色は鮮やかな赤色で、大玉です。



特長3：おいしい！



甘さと酸味のバランスが良く、上品な美味しさ。

果実特性

品種	形状	果皮色	果肉色	光沢	可販果		
					平均果重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (%)
熊本VS03	円錐	鮮紅	淡赤	良	17.6	12.0	0.74
さがほのか	円錐	橙赤	淡桃	良	15.3	11.9	0.62
ひのしずく	短~円錐	鮮紅	白	極良	17.9	12.7	0.65

※農産園芸研究所H25年度(糖度は11月~5月、酸度は1月~3月の平均値)

11月中下旬頃には、出荷が始まり店頭には並ぶ予定です。品種名は「熊本VS03」ですが、愛称を広く募集し、年内には決定することになっています。どんな名前が付くのか楽しみです。販売が始まりましたら、ぜひ一度ご賞味ください。

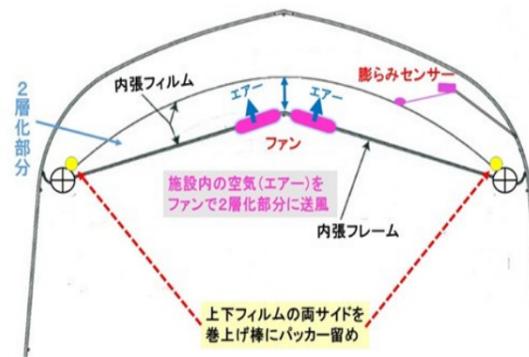


熊本農業の未来を拓く  
攻めの農業技術開発 **2**

園芸ハウスをエア送風2層化すれば  
燃料費が削減できる

本県では、園芸施設の燃料消費量削減対策として、ハウスの内側にフレームを追加しフィルムをもう一枚張る内張が設置されていますが、ハウスの軒高が低くフレーム等を追加することが困難なハウスも多いため、内張で2層化する技術はなかなか普及していません。

そこで、内張1層の上に重ねてフィルムを追加し、2枚のフィルムの間にはファンで空気を送り込むことにより、既存のフレームだけで簡単に2層化できる「エア送風内張2層化技術」を開発し、燃料消費量削減を図りました。



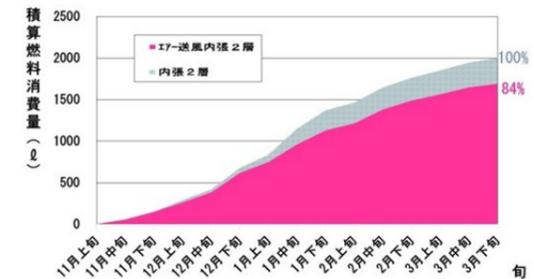
「エア送風内張2層化の仕組み」

1. 省エネ（燃油消費量が少ない）

同じ内張り2層でも、従来のフレームを追加した場合に比べ、今回のエア送風の場合、冬期(11月上旬~翌年3月下旬)の燃料消費量は84%に削減され、省エネ効果があります。

寒いほど削減効果が高くなり、暖房機設定温度と外気温との温度差が12℃の

時は、燃油消費量が79%まで削減されます。



2. コスト削減

内張り2層にすると、1層の場合よりも資材費は増しますが、その分の費用も含めて試算した結果(10aあたり、年間)、内張り1層に比べ、通常の内張り2層で24,815円、エア送風内張り2層は81,898円の経費削減となりました。(ハウスの奥行きが70mを超える場合は、ファンを2セット追加する必要があるため、削減額は小さくなり、39,237円となります。)



技術の詳細については、冬作に間に合うよう、夏頃にはマニュアルを作成し、公表することとしております。

「フードバレー  
アグリビジネス  
センター」

センターを活用した  
主な取り組み内容

(1)相談窓口でのワンストップ化  
6次産業化や事業拡大などの相談にワンストップで対応します。



(2)新たなビジネス化につながる  
試験研究

機能性成分の分析や流通・鮮度保持の試験研究を行い、地域での新たなビジネス化につなげます。

(3)オープンラボ機能による試作  
や研究開発の支援

当センターの設備が利用できるオープンラボ機能により、事業者の方の試作や研究開発を支援します。



(4)人材育成の強化

くまもと農業アカデミーなどと連携し、スキルアップのための研修会などを開催します。